

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームめぐみの丘冷水
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県鹿児島市
記入者名 (管理者)	鈴木大輔
記入日	平成20年 2月11日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>毎年事業所内のケア目標を立てています。今年度は「入居者の出来ることをたくさん見つけ、関わる」というものです。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>毎月のケア会議と、毎朝・夕のミーティングにて話し合う場を設けています。他グループホームとの勉強会にて、実践だけではなく認知症ケアの理論について学び、理念の実践にむけて取り組んでいます。</p>	
3	<p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>昨年度は、地域の方を対象とした「認知症についての説明会」を実施しました。今年度は、在宅で認知症の方を看られている介護者を対象にした「相談会」を実施しています。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>近所の方からお野菜を頂いたり、駐車場をお貸ししたり、行事への参加も声掛けを行っています。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>平成18年には町内会の一員として「おはら祭り」に参加させて頂きました。その他、地域の方がボランティアで来てくださり、歌を一緒に歌ったりして頂いています。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>地域の方を対象とした取り組みとして、年1回の「認知症に関する」講演会や2ヶ月に1度の相談会を実施できるよう話し合い、取り組んでいます。</p>	○	<p>認知症の方を看られている介護者を対象に相談会を実施しても、まだまだ参加者が少ないのが現状です。今度は地域の方々を訪問し、少しでもお役に立てるように取り組みたいと考えております。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>前年度同様、外部評価において指摘された事柄については、皆で話し合いの場を持ち改善してきました。これにより、ケアの質も向上したものと思われ、3度目となる今回は管理者および職員もその重要性を理解しているものと考えております。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議では、出席者の自己紹介・2ヶ月ごとの実績(行事など)・今後の予定を報告するだけでなく、入居者の徘徊行為などへの協力もお願いしています。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>地域包括支援センターの方には、運営推進会議への参加だけでなく、入居者の徘徊行為への相談等も行っています。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>成年後見制度について、研修を受けています。しかし、その必要性は感じているもののまだ制度を活用できていないのが現状です。</p>	○	<p>身寄りのいない方などへの援助として、重要な支援であると感じています。その制度を有効に活用できるよう、心がけたいと思います。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>管理者だけでなく、職員も高齢者への虐待防止についての研修を受けています。それとともに、ケア会議においても虐待について話し合う場をもちました。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の際には、十分な説明と共に、入所に関する不安の解消、ニーズについても尋ねるように心がけております。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の不満・苦情については、各スタッフが聞いたことを不具合処理表として残し、その対応策をケア会議等の話し合いにて考えております。</p>	<p>○</p> <p>改めて利用者の苦情や不満・意見などを聴く機会を設けてはいません。今後は、各個人に話を聴く機会を設けるべきであると感じています。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>機関紙等で定期的な情報をお伝えしております。また、個々によっては電話連絡や直接ご家族宅へ訪問し、情報をお伝えしています。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>年1回のアンケートや、機関紙発行時にもお手紙やお電話で不満・意見などを聴く機会を設けております。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ケア会議などでも、事業所での年度ごとの目標を皆で話し合っています。運営に関する問題も、ケア会議で報告し、意見や提案を受けています。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の健康状態が悪化した場合などには、その対応として職員を増加しています。その他、各個人から外出の要望があった場合も、職員4名体制(いつもは3名)にしています。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動の機会も少なく、離職者も少なくするよう勤務スケジュールもスタッフの要望をできるだけ聴いて立てています。また、有給も取りやすく、疲れやストレスの溜まらないような対制になっております。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職後は、新人教育プログラムがあります。その他、毎月の他施設との合同勉強会とともに、ホーム内勉強会を行っております。その他、様々な研修へ参加しています。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	上記のように、他グループホームとの合同勉強会を行ったり、研修・行事参加を通して、職員間の交流を深めています。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者と管理者は頻繁に連絡をとっております。また、残業手当や有給が取りやすいなど、ストレスや疲れを残さない環境作りを行っています。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	勤務表を毎月確認しているとともに、管理者や職員個々の実績により、賞与増加の機会も与えられています。	
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前のアセスメントと共に、入所初日にも本人との面談時間を設け、不安や要望を聴くようにしています。出来るだけロケーションダメージを少なく出来るよう心がけています。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前のアセスメントでは、ホームへ来所して頂くだけでなく、自宅を訪問することもあります。ご家族の入所に際し、出来るだけ不安を取り除き、また事前に要望もお聴きしております。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>当社独自のアセスメント表を使用し、必要としている支援を見極めるよう努力しています。また、グループホームにおいての支援に限らず、医療サービスや公共機関の使用も含めた対応を心がけております。</p>	
26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>移動に関するリロケーションダメージを少なくするために、ご家族の協力を得て、定期的に訪問して頂くこともございます。また、いきなり入居するのではなく、最初はお試しという形で“1日入居”を行っております。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>一方的な「やってあげる」だけのケアではなく、料理や茶碗洗い、花壇作りなどを手伝ってもらい、皆でホームを作ることを心がけています。</p>	
28	<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご家族も利用者を支えていくチームの一人であることを常に考え、関係を築いております。</p>	
29	<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>良いケアを行うには、本人の人間関係を知ることが重要と考えています。アセスメント時にお互いのお話を聴き、人間関係の理解とその支援を心がけています。</p>	
30	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>利用者の家族との関係だけでなく、ご主人の墓参りや、入所中の妻訪問などの支援も行っています。</p>	
31	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>利用者同士の関わり合いを大切にしています。また、仲が良いという関係への支援だけでなく、ライバル意識や敵対意識などの感情も出来るだけ尊重するよう心がけています。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>病院への入院後も、必要な限りの支援を行っています。また、退所後も年賀状やお手紙を送付し、関係を断ち切らないつきあいを大切にしております。</p>	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>個々の利用者の思いや意向の把握に努めると共に、それを行うことに対するリスクマネジメントも考慮しています。</p>	
34	<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>アセスメント時において、個人別基本情報としてご本人・ご家族から情報を収集しています。また、場合によっては在宅時のケアマネージャーやMSW等より情報を頂いております。</p>	
35	<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>当社独自のアセスメント表と共に、ケアプラン更新時にはADL測定表を使用し、有する力などを総合的に把握するように努めています。</p>	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>なかなか皆で集まることが困難な時は、ケアマネージャーがご本人・ご家族などとの連絡調整を行い、皆の意見を取り入れております。</p>	
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>その時のニーズに合わせた見直しを行っています。またその時は、ご家族や必要な関係者との連絡しております。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づきながらも、日々の様子だけでなく、新たなケアの実践・その結果・気づきなども個別記録に記入しております。それと共に、業務日誌にもそれを記入し、朝・夕のミーティングで報告するということで、情報を共有しています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	各自のニーズに応じて、出来るだけの臨機応変に対応できるよう、心がけております。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	「一人で散歩したい」という利用者への支援を行う上で、民生委員や警察の方々にご協力を頂いております。その他、公的施設の将棋教室など利用していたこともあります。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他病院のリハビリや、訪問マッサージなどを受ける方もいらっしゃいます。その支援についてSW等とお話をする機会もあります。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	まだ、権利擁護事業などを利用することがないために、協働しているとまではいいませんが、運営推進会議などを通して職員の方々との協力体制は出来ております。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医については、ご本人及びご家族の意向を大切にしております。また、病院受診については、こちらでお連れすることも可能です。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<input type="checkbox"/> プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	スタッフ一同、出来るだけ自尊心を傷つけないよう心がけています。また、記録等の個人情報の取り扱いにも注意しております(事務所保管)。	
51	<input type="checkbox"/> 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	以前のホーム理念(目標)は、「利用者の要望が出やすい環境を整える」でした。それを踏まえ、できることは自分で決め、納得しながら暮らせるように支援をしております。	
52	<input type="checkbox"/> 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間・おやつ以外は、基本的にフリータイムとしています。食事も体調や要望などに合わせ、時間をずらすこともございます。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<input type="checkbox"/> 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	行きつけの店がある方へは、理容などに限らず本人の望む店に行ける様配慮しております。	
54	<input type="checkbox"/> 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事について以前は一緒にとっておりましたが、現在は利用者の後にスタッフが召し上がっております。理由としては、食事場所が狭いこと、利用者と一緒に片付けを行う準備や食事介助等を利用者のペースで行いたいからです。	
55	<input type="checkbox"/> 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	タバコは、全面的に禁煙であり、吸うことはできません。飲酒やおやつ等に関しては、一人ひとりの要望や状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援しております。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>排泄チェック表を使用し、利用者一人ひとりの排泄パターンの把握に努めています。また、可能なだけトイレで排泄して頂く様、支援しております。</p>	
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>基本的に、毎日午前中に入浴時間を設けていますが、要望や体調により午後や夜間帯にも入浴して頂いております。時々は要望により近隣の温泉へお連れしております。</p>	
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>いつでも休息できるよう、配慮しております。また、散歩や畑仕事などを行い、日中体を動かすことで、良眠できるよう支援しております。</p>	
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>出来るだけ一人ひとりの力を活かした役割・趣味を持てるよう支援しております。</p>	
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>利用者・ご家族の希望や、その管理能力に応じてお金を保持したり使えるよう配慮しております。</p>	
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>日中は、ホーム玄関の鍵を掛けずに、出入り自由にしております。利用者は各自で散歩に行かれる方もいらっしゃいますし、またこちらで買い物や催しものにお連れしたりしております。</p>	
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>利用者の要望があれば、車いすの方でも野球観戦や墓参りなどにお連れしております。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の要望があれば、本人自らが電話できるよう支援しております。また、電話使用に関して利用者自らできなくても、こちらで補助しており、「話したい」という想いを大切にしております。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間に関しては設定せず、どなたでもご自由に訪問して頂きたいと思っております。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設け、身体拘束をしないケアに職員一同取り組んでおります。しかし、やむを得ない状況での身体拘束におきましては、身体拘束記録に①その態様、②拘束時間、③その際の利用者の心身の状況、④拘束理由等を記録し、ご家族にも早急にご連絡致します。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全ての職員が鍵を掛けないことへの弊害を理解しており、基本的に日中は玄関の鍵を掛けないようケアに取り組んでおります。		
67 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	一日を通して安全面には配慮しております。しかし、安全面を重視しすぎた為に、ケア内容に支障がでないよう気をつけてもおります。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品も一律になくさないよう、利用者各人の状態に合わせ、その上ケア会議において皆で話し合った上で、決定しております。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	未然に事故を防ぐために、研修や勉強会にて知識を学んでおります。また、火災時の緊急避難では利用者一人ひとりの状態に応じた緊急避難マニュアルを作成致しました。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	利用者の急変や事故発生時に備えた応急手当や初期対応の訓練は看護師の指導のもとに個々に行われますが、定期的に行っているとはいえません。今後は定期的な訓練・研修への参加が必要と感じております。	○	全ての職員が利用者の急変や事故発生時の応急手当や初期対応が出来るよう研修受講の機会や訓練を定期的に行う必要があり、今後はその支援をしたいと思っております。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災時等の緊急避難では利用者一人ひとりの状態に応じた緊急避難マニュアルを作成致しました。また定期的に避難訓練を行っております。近所の方々や民生委員の方にも日ごろよりご協力を頂けるよう働きかけております。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者の想いを大切にされたケアを目指しております。そのため、そのことへのリスクや日々のリスクについて家族等へ説明し、その対応策についてもケア会議等で話し合っております。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員は一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努めております。その情報は、朝・夕のミーティング時において申し送り、情報を共有しております。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬に関しては、全職員が内容・副作用等が分かるように資料を整理しています。またケア会議・ミーティングなどで変更、それによる症状の変化については報告しております。ホーム内勉強会でも抗精神薬についての勉強を行いました。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	朝食時の牛乳や食物繊維を多くとれるよう心がけております。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、利用者一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしております。口腔ケアチェック表を使用して、確実に口腔ケアを行えるよう心がけております。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食べる量は、主治医の指示により糖尿病等の方の量は少なめにすることもございます。また、日中の作業量の多い方や年齢によって、栄養が確保できるよう一人ひとりの状態や力によって支援しております。</p>	
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>当社独自の感染症マニュアルがございます。また、ホーム独自でも感染症対応マニュアルを作成致しました。</p>	
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<p>台所用品などは、2・3日/週にハイター消毒を行っております。また、調理時は包丁・まな板などアルコール消毒を常に行っております。</p>	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>玄関スロープには花を飾り、建物周囲も裏庭に安全にいけるようブロックを積む予定でおります。</p>	
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関にはお花を飾り、廊下には行事等での写真を掲示しております。リビングにも季節の花々を飾って生活感や季節感を取り入れるようにしております。</p>	
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>食事時以外は、自由に席について良いものとしており、テレビ前のソファも独りになれる空間として作りました。また、玄関に椅子を置くことで、外をみながらボーっとできるスペースを確保しております。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、利用者が使い慣れたものを持ってきて頂いております。場合によっては少しずつ必要物品を購入して頂くございます。できるだけ、利用者が居心地良く安全に生活できるよう配慮しております。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度だけでなく湿度も調整しながら、換気に努めております。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビングや廊下には、左右に必要最低限の手すりを取り付けており、杖歩行の方でも安心して移動できます。また、浴槽・トイレにも同様です。居室は、その人の身体機能に合わせ、手すりやベットの高さを調整し出来るだけ自立した生活が送れるように支援しております。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の入り口にも皆はネームを作らず、必要な方のみネームを作っています。その他、トイレは分かりやすいように配慮しているが、そのネームは入居者と共に作成しました。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の裏には畑もあります。居室窓より下は植物を育てたりするのに最適です。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

決して完成度の高い設備が整っているわけではございませんが、「利用者と共に施設を作る」ということに主眼をおいております。また、自由に出入りできて、狭いホーム内での生活だけではなく、外出する機会を多くするよう心がけています。今後は更なるQOL向上のため、「主体性の尊重」と「リスクマネジメント」が必要であると感じております。